

施策評価シート

(第1号様式)

総合計画体系	分野	1	教育・文化	施策担当部	教育部
	政策	2	時代に即した学校教育の推進	記入副部長名	館農 新一
	施策	4	高校・大学教育の振興を図ります		

【施策の内容】

現状と課題	<p>義務教育課程を終えた子どもたちは、自らの意思により進路を決定し自分の将来を選択していきます。未来を担う子どもたちの夢や希望、そして可能性を十分に引き出す高校・大学教育の振興は、地域の発展のためにも非常に重要です。</p> <p>現在、市内には、高等学校が3校、大学が1校在り、本市のみならず宗谷管内の教育の振興に大きく貢献してきました。</p> <p>しかし、ここ数年で加速する少子化の波は、公立高校におけるクラス数削減など、大きな影響を与えるとともに、大学においても安定した学生の確保を困難にしています。さらに、社会構造の急激な変化とともに、教育機関に求められる要望も多岐にわたり、本市において、今まさに高校・大学教育の大きな転換期を迎えていると言えます。</p> <p>今後は、この地域に育つ子どもたちにとって、どのような教育環境の整備が必要であるかをしっかりと考え、本市や宗谷管内、さらには道北圏域を含む広域的な視野に立ち、人口規模やその動向、地域性に十分に配慮しながら、社会の動向に対応した取組を進めていくことが重要です。</p>
目的	<p>地域性や時代のニーズに合った高校教育を目指すとともに、大学については学生のみならず広く一般市民が気軽に足を運び、市民ぐるみで学びを共有できる教育機関として確立します。</p>
主な内容	<p>1) 高等学校のあり方の検討と充実 2) 奨学金制度及び修学資金貸付制度などの継続及び充実 3) 産学官による共同研究の推進や生涯学習[※]機会の提供</p> <hr/> <p>※生涯学習→人々が自由な意思に基づいて、それぞれにあった方法で生涯にわたって学習していくこと。学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場・機会において行う学習など。</p>
状況変化	<p>計画当初(平成21年～)からの状況変化</p>

【成果指標】

成果指標の達成状況	成果指標の名称	指標の説明	単位	計画策定時	達成値	目標値
				19年度	23年度	25年度
	市内3高校の卒業者のうち、大学に進学した者の割合		%	43.9	44.2	↗

【市民アンケートの結果】

結果	現在の満足度 (-2「不満」⇒ 2「満足」)	今後の重要度 (-2「力を入れる必要なし」⇔ 2「力を入れてほしい」)
	-0.289	1.044

【担当部による評価】

成果と課題	これまでの主な取組と成果
	<p>《高等学校のあり方の検討と充実》</p> <p>○北海道教育委員会の平成20年度「公立高等学校配置計画」において稚内高校と稚内商工高校の再編統合が現実味を帯びたことを受け、同年「稚内の高校の在り方検討会議」が教育長の私的諮問機関として設置された。平成21年4月には、同会議からの答申に基づき、子どもたちの進路実現や本市の振興に支障が生じることのないよう、北海道教育委員会へ要望書を提出した。両校は平成25年4月より統合される。</p> <p>○市内の私立高校、稚内大谷高校の校舎が老朽化しており、閉校した稚内商工高校校舎の一部を活用する移転構想があることから、北海道と協議を進めている。</p> <p>《奨学金制度及び修学資金貸付制度などの継続及び充実》</p> <p>○経済的理由により高等学校や大学への進学や在学が困難な者を支援するための制度を継続しており、対象の更なる拡大を図るため、貸付条件の緩和等も行った。</p> <p>《産学官による共同研究の推進や生涯学習機会の提供》</p> <p>○稚内北星学園大学とは、「食」や「新エネルギー」などの分野で地域特性を活かした新産業の創出を促進する「わからない産業クラスター研究会」へのメンバーとしての参加をはじめとして、地域公共交通やスマートコミュニティなど市が取り組む様々な分野において連携が図られている。</p> <p>○大学が有する教育設備を、市民が気軽に生涯学習の機会を得る場として地域へ開放するよう努めている。また、同大学が地域に根差した大学であり本市にとって大きな財産であるとの認識を市民が持ち、ひいては“将来この学校で学びたい”という思いを市内の子ども達が持てるようになることを目指し、潮見が丘中学校との「中大連携」の取組等を推進している。</p>
	未達成の課題
	<p>《高等学校のあり方の検討と充実》</p> <p>上記のとおり、稚内大谷高校の校舎老朽化対策としての旧稚内商工校舎利用の検討は継続中である。</p> <p>《奨学金制度及び修学資金貸付制度などの継続及び充実》</p> <p>奨学金の滞納事例が増加し、滞納整理等の事務が発生している。</p>
今後の展開	施策の評価を踏まえた今後の取組の方向
	<p>《高等学校のあり方の検討と充実》</p> <p>旧稚内商工校舎について、北海道から最適な形で譲渡を受けられるよう努めており、平成25年度中に結論を出したい。</p> <p>《奨学金制度及び修学資金貸付制度などの継続及び充実》</p> <p>「奨学金システム」の導入により貸付事務処理の効率化を図りながら、制度を継続する。</p> <p>《産学官による共同研究の推進や生涯学習機会の提供》</p> <p>北星学園大学について、本市における生涯学習の一拠点と位置付けるよう取り組むとともに、各分野での連携を密にししながら、大学の知的財産と地域の産業の結びつきを強めるよう努める。</p>

【内部評価委員会の意見】

意見	<ul style="list-style-type: none"> ・稚内大谷高校の校舎老朽化対策への要請に応えるべく検討を進める。 ・奨学金制度について、これまでも見直しを行ってきたが、今後も時世に合った制度としていく。 ・稚内北星学園大学の持続的な生徒確保に向け、進学を目指す生徒等にとって魅力的な教育内容を引き続き検討していく。
----	---